

4月18日に、本校6年生児童を対象に実施された「全国学力調査」について、結果がまとめました。本調査は、国語と算数の2教科のテストと同時に、家庭での過ごし方や学習時間を問う調査も実施されており、生活習慣と学力との関係など、本校の子どもたちの状況をお伝えします。

総合結果(国語・算数)

国語・算数ともに全国平均を下回る結果となりました。しかし、無回答率は国語・算数ともに昨年と比べて改善が見られました。ジョイントプログラムもそうですが、児童が問題に真剣に向き合い、最後まであきらめないで取り組もうとする姿勢が育まれつつあります。

国語科より

記述式の問題(3設問)に課題が見られます。特に「目的や意図に応じ、話の内容を捉え、話し手の考えと比較しながら、自分の考えをまとめることができるかどうかをみる」問題は、相手の話をよく聞き、自分の考えをまとめて発表する力を着けていく学習の必要性を感じます。

また、「意外」など同音異義語の書き取り問題の正答率が低くなっています。国語・漢字辞典をいつも使う習慣や、普段から読書に親しみ語彙を広げることはとても大切です。

辞書を使う習慣を！
読書で語彙を広げよう！



算数科より

求め方や訳を記述する問題(4設問)について課題があります。問題を解くことはできていますが、どうしてその答えを導きだしたのか訳を記述するためには普段から自分の考えをまとめ、相手に伝える学習が大切です。また、30パーセントになるものを選ぶ問題では、100人のうち30人は正答率が高いものの、10人のうち3人の正答率が低くなっています。ジョイントプログラムでも同じような傾向を示していますので、復習など家庭学習をしっかりしましょう。

しっかり復習を！
基礎基本の定着を！



児童質問紙調査から①

Q 学校の授業時間以外に、普段(月～金)、1日あたりどれくらいの時間、勉強をしていますか。

(塾・家庭教師を含む)

「授業以外で1日3時間以上勉強する」と回答した児童は全市平均、全国平均ともに上回っている一方で、「30分未満」「全くしない」の児童は全国平均よりも多くなっています。学力(正答率)との相関関係で見ると、「3時間以上勉強する」児童と「30分未満」の児童では、6ポイント以上の差がついています。

本校では宿題で自主学習に取り組むよう児童に促しています。基礎基本の定着を図るとともに、児童が自ら興味関心のある学習に取り組むことができるようになっています。また、わからないことをそのままにせずに教師に質問したり、友だちと学びあったりと「つながり」を大切にしながら学力の定着を図っていきたいと思います。

家庭学習の習慣化 15分×学年 見守る姿勢・サポートする姿勢

児童質問紙調査から②

Q 読書は好きですか。

全体的に読書を好む児童は増加しています。しかし、「どちらかといえばあてはまらない」「あてはまらない」と回答している児童が3割近くいるという現状は看過できません。学力(正答率)との相関関係も見られ、「読書が好き」と答えた児童と「好きではない」と答えた児童を比べると、10ポイント以上の差が見られます。

本校では朝の朝時間に読書タイムを設けるなどして読書に親しむことができる環境づくりに努めています。また、年2回の読書週間も児童に読書の楽しさや有用さを感じさせるよい機会になっていると考えます。読書の楽しさを味わうことができる取組を引き続き行なっていきます。

親子で読書を！ いろいろなジャンルの本に親しもう！

全体を通した本校の成果と課題

本校では、「自ら学び、未来を創造する子の育成」という学校教育目標のもと、保護者や地域の皆様の協力を得て、教職員一丸となって取組を進めています。

「基礎的・基本的な知識や技能」のほか、それらを活用して課題を解決するために必要な「思考力・判断力・表現力」、「学ぼうとする意欲」、そして「生涯にわたって学び続ける力」を身につけることです。学校だけでなく、地域全体を学習のフィールドとしてとらえ、幅広く身につけていくことがとても重要です。その基盤となる「自分で勉強する習慣」は、計画を立てたり、見通しをもって行動したりする力につながることから、この習慣が学力向上の大きなポイントであると考えています。一定改善してきたとはい、予習・復習など学校の授業以外で学習を全くしない児童も依然として多く、6年生だけでなく、本校全体の大きな課題となっています。

心を豊かにする読書もそうですが、学習には30分でも1時間でもその積み重ねが大切です。意識して取り組んでいきたいものです。

自学自習の習慣を「学び続ける」ことの大切さを

保護者の皆様へ

全国調査は、子ども達の学習状況を知り、子ども達の可能性をさらに伸ばしたり、課題を解決したりしていくためのものです。結果が学力の全てを表しているのではなく、順位を競うものではありません。

学力は、学校・家庭・地域での地道な積み重ねにより定着していくものであり、望ましい生活習慣や日々の学習習慣がその基盤となります。今回の本校の結果をみると、これまでの調査と比べて学習に粘り強く向かう姿勢は着実に伸びてきており、ご家庭での子たちに対する積極的な関わりや指導・支援の成果が表れています。引き続き子ども達の健やかな育ちと学びの環境づくりにご協力をお願いいたします。

自分らしい生き方を探究し続ける子どもに